

報告書抄録

ふりがな	
書名	
副書名	
巻次	
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第150冊
編著者名	
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番の3 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
のじょういせきだい じゅうなな・じゅう くじ 野条遺跡第17・19次	なんたんしやぎ ちょうのじょう 南丹市八木町野条	26213	6 59	35° 05' 30"	135° 32' 02"	20100705 ～ 20101203、 20110817 ～ 20111222	1,950 (17次) 1,130 (19次)	ほ場整備
だいにそとかんじょ うどうろかんけいい せき 京都第二環状道路関 係遺跡 ながおかきょうあと うきょうだいきゅう ひやくななじゅう・ せんなな・せんにじゅ うよんじ・しもかい いんじいせき 長岡京跡右京第970・ 1007・1024次・下海 印寺遺跡	ながおかきょうし しもかいいんじに しじょう 長岡京市下海印寺 西条	26209	95 107 95 107	34° 55' 30"	135° 40' 51"	20080617 ～ 20090217、 20090408 ～ 20091222、 20100823 ～ 20101110、 20100118 ～ 20100225、 20100601 ～ 20101028	4,000	道路建設
ながおかきょうあと うきょうだいきゅう ひやくななじゅうじ・ しもかいいんじいせ き 長岡京跡右京第1024 次・伊賀寺遺跡	ながおかきょうし しもかいいんじか わむかい 長岡京市下海印寺 川向井	26209	96 107	34° 54' 59"	135° 41' 03"	20111205 ～ 20111216、 20111216	300	道路建設
ながおかきょうあと うきょうだいきゅう ひやくななじゅうじ・ しもかいいんじいせ き 長岡京跡右京第1024 次・奥海印寺遺跡	ながおかきょうし 長岡京市奥海印寺 荒堀	26209	68	34° 55' 19"	135° 40' 24"	20120112、 20120216	5	道路建設
かみこまきたいせき だいにじ 上狛北遺跡第2次	きづがわしやまし ろちょうかみこま たからもと・にし うらだい 木津川市山城町山 城町上狛宝本・西 浦代	26214	84	34° 45' 13"	135° 48' 56"	20100824 ～ 20110309	1,630	道路建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野条遺跡第17・19次	集落跡	弥生 奈良～平安	溝 掘立柱建物跡・柵列	弥生土器 土師器・須恵器・瓦器	
京都第二環状道路関係遺跡 長岡京跡右京第970・1007・1024次・奥海印寺遺跡・下海印寺遺跡・伊賀寺遺跡	集落跡 集落跡 都城跡 屋敷跡 集落跡	弥生 古墳 長岡京期～平安 中世 近世	溝・竪穴式住居跡 溝・竪穴式住居跡・掘立柱建物跡 溝・掘立柱建物跡・柵列・土坑 堀・掘立柱建物跡・柵列・道路状遺構 溝・土坑	弥生土器 土師器・須恵器・石製品 土師器・須恵器・土馬・緑釉陶器・銭貨 土師器・瓦器・瓦質土器・陶磁器・瓦 陶磁器	平安時代末～鎌倉時代の堀で囲まれた屋敷地を確認
上粕北遺跡第2次	集落跡	古墳 奈良 中世	竪穴式住居跡・土坑 溝・掘立柱建物跡・土坑 ピット	土師器 木簡・墨書土器・土師器・須恵器・銅椀片・ 瓦器・瓦質土器・陶磁器	恭仁宮と同時期の遺構を確認

所収遺跡名	要 約
野条遺跡第17・19次	弥生時代後期の溝や奈良～平安時代の建物群を検出した。弥生時代後期の溝は灌漑を目的に掘削されたと推定され、溝の北側に展開する同時期の集落の境界を画する溝であったと考えられる。また、この溝からは集落の境界で行われた祭祀に伴う土器が出土した。
京都第二環状道路関係遺跡 長岡京跡右京第970・1007・1024次・奥海印寺遺跡・下海印寺遺跡・伊賀寺遺跡	弥生時代末～古墳時代初頭および古墳時代後期の竪穴式住居跡を検出した。 また、平安時代末期～鎌倉時代にかけての堀に囲まれる屋敷跡を確認した。屋敷地は一辺約50mの方形に復元できる。堀と考えられる溝には土橋が架けられ、溝の内側には板塀が設けられている。屋敷地内には掘立柱建物群が分布する。屋敷地の時期は溝等の出土遺物から11世紀末頃から12世紀中頃と考えられる。 溝は近世の阿弥陀寺の区画溝として利用されていたようであり、埋土から近世陶磁器がまるとまって出土した。
上粕北遺跡第2次	古墳時代・奈良時代・中世の各時代の遺構を検出した。古墳時代については、竪穴式住居跡を8基検出した。これまで同地域で木津川左岸で未確認であった古墳時代中～後期の集落跡を確認した。奈良時代については、総延長100m以上を測る溝のほか、この溝と同じ計画方位をもつ掘立柱建物跡や建物に先行する土坑を検出した。この土坑からは多量の土器とともに木簡や木簡の削り屑が出土した。これらの遺構・遺物は恭仁宮とほぼ同じ時期であることからこれまで不明であった恭仁京城との関連が想定される。